

フィリッピ書序言

フィリッピのこと　フィリッピはマケドニア国の一都会で、国王フィリッポ第一世の設立による関係から、このように名づけられたが、のち羅馬帝国の植民地の一つとなった。

フィリッピ教会とパウロとの関係　使徒行録十六章十二節以下に見られるように、パウロはおよそ紀元五二年のころ、第二回の伝道旅行中、フィリッピに行ったことがある。これは彼のヨーロッパにおける布教の初めで、その結果、熱心な信者を作ったが、パウロがある時、一婦人についた悪鬼を追い出したため、その女によって利益を収めていた人々の怒りを買ひ、捕えられて打ち打たれ、監獄に入れられ、奇跡によつて救い出されはしたものの、やむを得ずここを立ちのかなければならなかつた。さて、あとには福音史家である彼の弟子ルカを残したが、幾らも経たぬうちに、市中およびその付近に盛大で熱心な教会を生じた。およそ五八年のころ、第三回の伝道旅行中、パウロはエフェゾから追い出されて、コリント後書八章一節から五節までに見えるように再びマケドニア国に行き、エルザレムの貧窮な信者のためにきよきん贖金をつつたところ、コリント後書八章十五節に見られるようにフィリッピ人は言うまでもなく、この国の信者たちは殊勝しゆしやうな志をもつて出金した。翌年の春、パウロはまた、エルザレムへ行く途中、過ぎ越しの祝いの時にここで一週間を過ごした。パウロは特にフィリッピの信者を愛し、彼らにも非常に愛されて、布教申しばしば彼らから慰められ、また金銭上の援助を受けた。パウロは他の教会からは金を贈られ

ることを拒絶したが、フィリッピ人の心を知って、特にこれを受けたのである。

本書をしたためた機会および目的 当時フィリッピ人は、パウロがロマで囚人となったことを知り、自分たちの牧者中でも殊に熱心であったエパフロジトを派遣して、金銭をもともに贈ったところ、パウロはこれを喜んで本書を送ったのである。それゆえにおおかたエパフロジトに託したものである。フィリッピ信者の中には特に非難するような点がなかったので、本書には少しもとがめだてるようなところがなく、ただ最も熱心な信徒にも勧めないではいられないこと、すなわち感謝をもつて神の恵みを受けるべきこと、利己主義を避けてますます相一致すべきこと、たゆまず高德に進むことを奨励するだけである。

パウロの目的は、信者に感謝状を送るとともに、彼らをもつぱら徳に進ませることにあるから、本書はロマ書、ガラチア書、エフェゾ書、コロサイ書、ヘブレオ書におけるように、教理または倫理に関して確定したことを述べず、あたかも父が子に対するような心をもつて、謝辞、音信、および種々の親切な勧告を言い送るだけである。それゆえ文章もやさしく、ゆるやかで、テサロニケ書よりも、著しく愛情を示し、ことさら書簡の体裁をもつて、筆者が獄中艱苦の身であるにもかかわらず、徹頭徹尾喜ばしい調子を帯びている。

本書の区分 本書は以上に述べたような次第であるから、確固とした論理的な順序はなく、あるいはパウロ自身のこと、あるいはフィリッピ人のこと、あるいは自分の協力者のことを順次に述べただけである。本書を区分すると、冒頭（一章一―十一節）のち本文に移り、まず第一にパウロ自身に関する音信を述べ（一章二―二十六節）、第二には忍耐、懇切、謙遜、救霊に対す

る努力を勧め（一章二十七節〜二章十八節）、第三には、ほどなくフィリッピへ遣わそうとする二人の弟子を賞賛し（二章十九〜三十節）、第四にはユデア教主義の人々に対して用心を怠らず、完徳に達するよう努むべきことを勧め（三章一〜二十一節）、第五には種々の勧めをなし（四章一〜九節）、終わりに末文において謝辞を述べ（四章十〜二十節）、また伝言をなし、祝祷をもつて結ぶ（四章二十一〜二十三節）。

使徒聖パウロ、フィリッピ人に送りし書簡

冒頭

第一章

挨拶

1 イエズス・キリストのしもべたるパウロおよびチモテオ、すべてフィリッピに

2 おいてキリスト・イエズスにある聖徒ならびに監督¹および執事²等に「書簡を送る」。2 願わくは、わが父にてまします神および主イエズス・キリストより恩寵と平安とを汝らに賜わらんことを。

4-3 パウロの感謝

3 われ汝らを思い起こすごとに、わが神に感謝し、4 すべての祈祷において常

5 に汝ら一同のために喜びて懇願^{こんがん}し奉る。5 けだし汝ら最初の日より今に至るまでキリストの福音のために協力したれば、6 汝らのうちに善業を始め給いし者の、キリスト・イエズスの日まで、これを全うし給わんことを信賴せり。

7 フィリッピ人における希望 7 汝ら一同につきて、わがかく思えるは至当^{しとう}のことなり、そは汝

らわが心であり、またわが繩目のうちにあるにも、福音を弁護してこれを固むるにも、汝らみな
8 われとともに恩寵³にあずかればなり。8 けだし、わがキリストの腹^{はら}わたをもつて、いかばかり汝ら一同を恋い慕うかは、神わがためにこれを証し給う。9 わが祈るところは、すなわち汝らの愛
10 がますます知識とすべての悟りとに富み、10 汝らがひとしお良きことをわきまえて、キリストの
11 日に至るまで清くとがなくして、11 イエズス・キリストによりて神の光栄と賛美とのために、義

の効果に満たされんことこれなり。

第一項 パウロ自身の音信おとずれ

- 12 パウロの患難は福音の伝播でんぱに益せり 12 兄弟たちよ、われ汝らの知らんことを欲す、わが身に
 13 関する事がらは、かえって福音の裨益ひえきとなるに至りしことを。 13 すなわち、わが繩目に会えるこ
 14 とのキリストのためなるは、近衛兵このえへいの全營ぜんえいにもいずこにも明らかに知られたり。 14 かくて兄弟中
 の多数は、わが繩目のゆえに主を頼み奉りて、ひとしおはばからず神の御言葉を語るに至れり。
 15 実はそのねみと争いとのためにキリストを述ぶる者もあれど、好意をもってする者もあり、 16 ま
 17 た福音を守護せんためにわが置かれたるを知りて、愛情よりする人もあれば、 17 真心まごころを持たず、
 18 繩目におけるわが困難を増さんことを思い党派心とうはしんよりキリストのことを説く者もあり。 18 さりと
 ても何かあらん、いかようにもあれ、あるいは口実こうじつとしてなりとも、あるいは真心をもってなり
 とも、キリスト宣伝せられ給えば、われはこれを喜ぶ、「以後も」また喜ばん。
 19 パウロ自身の境遇につきての所感しょかん 19 そはわれ、汝らの祈りとイエズス・キリストの霊の助力
 20 とによりて、このことのわが救いとなるべきを知らばなり。 20 これわが待てるところ、希望せる
 ところにならえり、すなわちわれ何においても恥ずることなかるべく、かえっていつもしかある
 ごとく、今もまた、生きても死してもキリストは完全にわが身においてあがめられ給うべきなり。
 21 死ぬると生きて働くといずれにせんか 21 けだしわれにとりて生きるはキリストなり、死ぬる

22 は益なり。22 もし肉身において生くることが、われに事業の効果あるべくば、そのいずれを選ぶべきかはわれこれを示さず、⁴ 23 われは双方そうほうにはさまれり、立ち去りてキリストとともにあらんとを望む、これわれにとりて最も良きことなり、⁵ 24 されどわが肉身に留まることは汝らのためになお必要なり。25 かく確信するがゆえに、われは汝らの信仰の進歩と喜びとを来さんために汝ら一同とともに留まり、かつ逗留とうりゆうすべきことを知る。26 われ再び汝らに至らば、キリスト・イエズスにおいて、われにつきて汝らの誇るところはいや増すべし。

第二項 実用的勧告

27 信徒一致の義務 27 汝らはただキリストの福音にふさわしく生活せよ、これわがあるいは至りて汝らを見る時も、あるいは離れて汝らのことを聞く時も、汝らが同一の精神、同一の心をもつて立てることと、福音の信仰のために一致して戦うことと、⁶ 28 いささかも敵に驚かされざることとを知らんためなり。この驚かされざることこそ、敵には滅びの印、汝らには救霊たすかりの印にして、神より出ずるものなれ。29 そは汝らキリストのために賜わりたるは、ただこれを信ずることのみならず、またこれがために苦しむことなればなり。30 汝らの会える戦いは、かつてわれにおいて見しところ、またわれにつきて聞きしところに等しきものなり。

① いわゆる司教、司祭。 ② いわゆる助祭。 ③ ラテン訳では喜び。 ④ ラテン訳では知らず。 ⑤ ラテン訳では必要なり。 ⑥ ラテン訳では、ともに働くこと。

第二章

謙遜けんそん謙遜けんそんに基きて一致すべし 1 もし幾ばくのキリストにおける勧め、幾ばくの愛による慰

2 め、幾ばくの聖霊の交わり、幾ばくのあわれみの腹わたあらば、2 汝らわが喜びを満たせよ。す
 3 なわち心を同じゅうし、愛を同じゅうし、同心同意にして、3 何ごとも党派心、虚栄心のために
 4 せず、謙遜して互いに人をおのれにまされる者と思ひ、4 おのおの、おのがことのみを顧みずし
 て他人のことを顧みよ。

6-5 模範はキリストなり 5 汝ら志すことはキリスト・イエズスのごとくなれ、6 すなわち彼は神
 7 の形にましまして神と並ぶことを盗みとは思ひ給わざりしも、7 おのれをなきものとして奴隷の
 8 形をとり人に似たるものとなり、外貌がいぼうにおいて人のごとくに見え、8 自らへりくだりて、死、し
 かも十字架上の死に至るまで従える者となり給ひしなり。

9 その謙遜の報い 9 このゆえに神もまたこれを最上にあげて、賜うにいつさいの名にまされる
 10 名をもつてし給えり、10 すなわちイエズスのみ名に對しては、天上のもの、地上のもの、地獄の
 11 もの、ことごとく膝ひざをかがむべく、11 またすべての舌したは父にてまします神の光栄のために、イエ
 ズス・キリストの主にましますことを公言すべし²。

12 救霊たすかりを全うすべし 12 さればわが至愛なる者よ、汝らが常に従いしごとく、わが面前にある時
 のみならず、今不在の時にあたりても、ひとしお恐れおののきつつ、おのが救霊たすかりを全うせよ、13
 13 そは志すことと、しとぐることは、神がご好意をもつて汝らのうちになさしめ給うところなれば
 なり。

15-14 世に及ぼす影響 14 汝らつぶやくことなく、争うことなく、いつさいのことを行なえ、³ 15 これ

16 汝らが悪しくかつよこしまなる代^よにありて、⁴とがむべきところなく、神の純粹なる子どもとしてとがなき者とならんためなり。汝らにかかる人々の間に世界における星のごとく光りて、¹⁶生命の言葉を保てり、かくてわが走りしことのむなしからず、勞せしことのむなしからずして、キリストの日においてわが名誉となるべし。

17 キリストのためにほふられんことを喜ぶ ¹⁷たとい汝らの信仰の供え物と祭との上にわが「血は」注がるも、われはこれを喜びて汝ら一同とともにこれを祝す、¹⁸汝らもこれを喜びてわれとともに祝賀^{しゆくが}せよ。

第三項 パウロ、フィリッピに遣わさんとする人々を賞賛す^{ししようさん}

19 チモテオのこと ¹⁹われも汝らのことを知りて心を安んぜんため、速かにチモテオを汝らに遣わさんことを主イエズスにおいて希望す。²⁰そはかくまでわれと同心^{どうしん}して、真心をもって汝らのためにおもんばかる人、またほかにあらざればなり。²¹けだし人はみなイエズス・キリストのこととを求めず、おのがことを求む、²²といえども彼が福音のために、子の父におけるごとくわれとともに努めたるは、汝ら⁵がその証^{しょう}を知れるところなり。²³さればわが身の上の成り行きを見れば、ただちに彼を汝らに遣わさんことを期せり。

24 エパフロジトのこと ²⁴われ自らもまた、ほどなく汝らに至るべきことを主において信頼す。

25 されどわれ思うに、汝らより遣わされてわが要するところを供せしわが兄弟にして協力者たり

26 戦友たるエパフロジトを汝らに遣わさざるべからず。26 けだし彼は汝ら一同を恋い慕い、その病
 27 める由の汝らに聞こえしとて憂いいたりしなり。27 実に彼は病にかかりて死ぬばかりになりたれ
 ど、神は彼をあわれみ給い、ただに彼のみなならず、わが悲しみの上にまた悲しみの重ならざるよ
 28 う、われをもあわれみ給えり。28 このゆえに彼を見ることによりて更に汝らを喜ばせ、わが憂い
 29 をも減せんために、ひとしお早く彼を遣わせるなり。29 されば汝ら主において厚く彼を歓迎し、
 30 丁重にかかる人物を待遇せよ、30 そは彼、われを助けて汝らの欠けたるところを補わんと、キリ
 ストの事業のために生命を投じて死を冒したればなり。

① ラテン訳では慰め。

② ラテン訳では主イエズス・キリストが父なる神の光榮のうちにましますことを公言す。

③ ラテン訳では行なえ。

④ ラテン訳では国民中にありて。

⑤ ラテン訳では知れよ。

第四項 偽教師に用心して完徳に進むべし

1 **第三章** ユデア教主義の人に対する心得 1 そのほか、わが兄弟たちよ、汝ら主において喜べ、

2 繰り返して同じことを書き送るも、われは飽くことなくして、しかも汝らに益あり。2 汝ら、か
 3 の犬どもに用心し、悪しき働き手に用心し、にせの割礼に用心せよ。3 けだし霊によりて神を礼
 拝し、肉身を頼まずしてキリスト・イエズスに誇れるわれらこそ割礼なれ。

4 パウロもユデア教の徳を有す 4 されどわれは肉身にも頼むことを得、他人もし肉身に頼むを
 5 得とせば、われはなおさらのことなり。5 われは八日目に割礼を受けてイスラエルの末ベンヤミ

6 ンの族、ヘブレオ人よりのヘブレオ人、律法^{*}に対してはファリザイ人^{*}、6 奮発^{*}につきては神の教
 7 会を迫害せし者、律法によれる義につきてはとがなく生活せし者なり。7 しかるにわが益となり
 8 しこれらのことを、われはキリストに対して損なりと認めたり。8 しかもわが主イエズス・キリ
 9 ストを知るの超越^{ちゆうえつ}せる学識^{がくしき}に対しては、いっさいのことみな損なるを思う。われキリストのため
 10 にいっさいの損失をこうむりしかど、これを見ること糞土^{ふんど}のごとし。これキリストをもうけ奉ら
 11 んためにして、9 また律法^{*}によれるわが義を有せず、キリスト・イエズスにおける信仰よりの義
 12 すなわち信仰によりて神より出ずる義を有しつつキリストにおいて認められんため、10 キリスト
 13 を知り、キリストの復活の能力を知り、キリストの死にかたどれる者となり、その苦しみにあず
 14 かりんため、11 いかにもして死者のうちより復活するに至らんためなり。
 15 **完全とならんことを努む** 12 かく言えばとて、われすでに達^えすることを得、あるいは完全にな
 16 りたるにはあらず、ただわれキリスト・イエズスに捕えられたれば、いかにもしてこれを捕え奉
 17 らんと追求するのみ、13 兄弟たちよ、われ捕えたりと思わず、努むるところはただ一つ、すなわ
 18 ち、あとのこと忘れて先のことに向かい、14 神がイエズス・キリストによりて上に召し給える
 19 ところのほうびを得んとて目的を追求するのみ。15 さて完全となる「に進む」われらは、志すこ
 20 と、みなかくのごとくなるべし。汝らもし何らかの異議あらば神はこれをも汝らに示し給わん。
 21 16 ただし、すでに至れるところよりして、われらは進むべきなり。
 22 17 わがあとを慕うべきことを勧めむ 17 兄弟たちよ、われを学べ、また汝らがわれらを型^{かた}とせると
 23 18 とくに歩める人々に注目せよ。18 けだしわれ、しばしば汝らに言えるごとく今なお泣きつつ言う、

19 キリストの十字架の敵として歩む人多く、**19** その果は滅びなり、彼らは腹をその神となし、恥ずべきことを誇りとなし、世のことをのみ味わう。

20 **真信徒の希望** 20 しかれどもわれらの国籍は天にありて、われらはわが主イエズス・キリストの救い主として天より来り給うを待つなり。21 彼はよく万物をおのれに服せしむるを得給う力をもつて、われらが卑しき体を変せしめ、おのが栄光の体にかたどらしめ給うべし。

① ラテン訳では必要なり。 ② ラテン訳では神に奉事し。 ③ ラテン訳では受けし規則を守り、意を変えず、あとずさりせざるべし。 ④ ラテン訳では生活。

第五項 種々の勧告および感謝

1 **第四項** **平和と一致とを勧む** 1 さればわが至愛にして、いとなつかしき兄弟たちよ、わが喜び、

2 わが冠なる至愛の者よ、主においてかくのごとく立て、2 われエヴォジアにも勧め、シンチケにも勧め、主において心を同じゅうせんことを。3 くびきをもにする忠実なる友よ、われ汝にも、これらの女を助けんことをこいねがう。彼らはクレメンズと生命の書に名をしるされたる他のわが助力者とともに、われに伴いて福音のために働きしなり。

5-4 **喜びと祈禱とを勧む** 4 汝ら常に主において喜べ。われは重ねて言う、喜べ。5 汝らの温良なること、すべての人に知れよかし、主は近くましますなり。6 何ごとをも思いわずらうなかれ、ただ万事につきて祈禱と懇願と感謝とによりて、汝らの願いは神に知られよかし、7 かくていっ

さいの知恵にまさされる神の平安はキリスト・イエズスにおいて汝らの心⁵と思いとを守るべし。
 8 **完徳の要点** 8 そのほか兄弟たちよ、すべて誠なること、すべて尊ぶべきこと、すべて正しきこと、すべていさぎよきこと、すべて愛らしきこと、すべて好評あること⁶、いかなる徳も、規律のいかなる誉も、汝らこれをおもんばかれ。9 汝ら、われにつきて学びしこと、受けしこと、聞きしこと、見しことはこれを行なえ、かくて平和の神、汝らとともにましますさん。

末 文

10 **フィリッピ人の数度の補助を謝す** 10 汝らがわが身の上を思う心の、ついにまたきざしたることを、われ主においてはなはだ喜べり。汝らはもとよりわれを思いたれど機会を得ざりしなり。
 11 **利己のためにあらず** 11 われは欠乏によりてこれを言うにあらず、そはあるがままにて事足れりとするは、わが学びたるころなればなり。12 われは卑しめらるることを知り、また豊かなることをも、飽くことをも、飢うることをも、欠乏をしのぐことをも知りて、何ごとをもいっさいにつけて練習せり。13 われを強め給う者においていっさいのこと、わがなし得ざるはなし。14 さりながら汝らは誠によくわが困難を助けたり。15 フィリッピ人よ、汝らも知れり、わが福音を伝える初め、マケドニアを出発せし時には、いずれの教会も、やり取りの風をもつてわれに交わらず、汝らのみこれをなして、16 一たびも^{ひと}二たびも^{ふた}テサロニケに送りて、わが用に供したりき。
 17 **フィリッピ人の利益となるゆえなり** 17 われ贈り物を求むるにはあらず、ただ汝らの利益とな

18 する効果の豊かならんことを求むるなり。18 われには何ごとも備わりて余りあり、汝らが贈りし物のその香りか**んば**しく、神のみ心にかないて**嘉納**^{かのう}せらるる犠牲を、エパフロジトより受けて飽き足れり。19 わが神はおのが富によりて、光栄のうちに汝らの要するところを、ことごとくキリスト・イエズスにおいて満たし給うべし。20 願わくは、わが父にてまします神に世々光栄あらんことを、アメン。

22-21 伝言 21 キリスト・イエズスにある聖徒のおのおのによろしく伝えよ。22 われとともにある兄弟たち汝らによろしくと言えり。すべての聖徒、ことにセザル⁹の家⁹に属する人々、汝らによろしくと言えり。

23 祝^{しゆくとう}禱 23 願わくは、わが主イエズス・キリストの恩寵、汝らの靈とともにあらんことを、アメン。

- ① 婦人である。② ラテン訳では、こいねがう。③ 名は不明。④ ペトロの第二の後任者となった者。⑤ ラテン訳では知恵。⑥ ラテン訳では聖なること。⑦ ラテン訳では汝らのすべての望み。⑧ ラテン訳では給えかし。⑨ ロマ皇帝。